

Q. 女性が多い保育園で働くことに抵抗感はなかったのですか？

そもそも「男性だから」という意識がないので、女性の多い職場でも、「男性だから」困ったことはありません。女性が多いと多少は気を遣いますが(笑)保育士はゼロからのスタート。彼女たちの方がはるかに先輩です。保育の経験値ではかないません。保育園にもいろんな人がいて、いろんな年齢層があっても良いと思うのです。だから、**男性やおじいちゃん**がいても良いのかなと思います。



お話を聞いていると、**人間幾つになってもスタートが切れる**ことを再確認することができました。男性で保育士になりたいと思っている人は昔からいたように思いますが、実際には周りにあまりいなかったですよ。男性だからなれないと思いついていた人がいたとしたら、**一歩を踏み出す勇氣**を与えてくれますね。どんどん増えていってほしいと思います。

Q. 陸名さんのようにこれからチャレンジする人に向けて一言お願いします！

一番は、**関わりや縁を楽しむ**ということですね。私は、「**泣いて暮らすも一生 笑って暮らすも一生**」という言葉座右の銘にしています。人と関わることでストレスを感じるぐらいなら、嫌いな人とは話さない、くよくよしないこと。割り切って前だけを見ていけば良いのです。人は人との関わりの中で生きてるので、性別や年代に関わらず、無理のない範囲で、地域社会との関係を持ち続けてほしいものですね。何よりも**自身がその関わりを楽しむ**こと。同じ生きるなら人生を**楽しく**送りましょう！



のもと保育園
田中園長

万年先生について

子どもとの関わりが上手で、読み聞かせもとても上手です。クラスに入って読むと、他の先生のお手本にもなっています。お母さんやお父さんにも違和感はありません。万年先生は保育園になじんでいるのです。お父さんとして、おじいちゃんとして甘えたい子もいるので、みんなにとって大切な存在です。

ほっとらいん編集協力員の感想

陸名さんへの取材を通して、年齢も性別も関係なく、自分がやりたい、やってみたいことを自分で選択して自分らしく生きることが大切であることを教えていただきました。

問合せ 人権推進課
☎ 21-1416
FAX 23-2236



一度きりの人生を、自分らしく楽しむこと。

むつ な まん ねん
保育士 **陸名万年** さん

女性が多い職場とされる保育士の仕事をしている陸名さん。保育士として働くにあたってのご家族の反応から、市民の皆さんへのメッセージまでお話を伺いました！

再任用で65歳まで勤められる保障はあったものの、仕事に面白さがなくなってきたと感じ、58歳で退職し、その年の4月にきらめき市民大学に入学。併せて当時、孫が生まれて間もなかったこともあり、放送大学に入学し興味があったという乳幼児心理学を学ぶ。その後、保育のボランティアを始める中で、レベルアップをしたいと保育士試験の受験を決意。63歳で保育士に合格し、65歳(※取材当時)の今も、保育園で子どもたちとの関わりを続けている。



Q. 保育士の仕事を目指す上で、ご家族の反応はありましたか？



ほっとらいん編集協力員
しみずえいこ
清水栄子さん

退職してからは、自分の好きなことばかりやっていました。退職2年目の4月から参加していました東松山市のシニア保育ボランティアの様子をよく自宅でも話していたこともあり、「保育の仕事楽しそうなのでぜひやってみたら」と後押ししてくれました。試験勉強時間の確保にもよく協力してくれました。

保育士になってからはどうですか？



毎日子どもたちと関わりを持ちたい気持ちはあるのですが、毎日ですとこれまでのボランティア活動(介護予防のためのハッピー体操のサポーター)も孫の習い事の送り迎えなどもできなくなってしまいうことも無理のないよう週2日楽しく働いています。働く日数が少ないのに採用してくれた園に感謝しています。

Q. 今、自分の生き方をどのように感じていますか？



ほっとらいん編集協力員
ふじただあき
藤井忠晃さん

勤めていたときも、自分の仕事に誇りや自信を持っていましたが、これからは好きなことをやろうと思いました。58歳が切り替えに適した時期であったと思います。勤めを辞めて、**初めて真の社会人**になれたと思います。自由になり、羽を伸ばしたという感じです。今日は何をしようかなと悩んだことはありません。毎日やりたいことがたくさんあります。自分の未来を考えても、今まで通り上手く転がっていくのかなと思っています。

65歳で定年になって、何もしないと4年で仕事が恋しくなるらしいです。私の周りにも会社勤めを辞めてやりたいことをする人がいますが、**保育士を選ぶ人は珍しい**ですね。